

ジプレキサ筋注用 10mg

【この薬は？】

販売名	ジプレキサ筋注用 10mg Zyprexa Rapid Acting Intra-Muscular Injection 10mg
一般名	オランザピン Olanzapine
含有量	1 バイアル中 11.0mg

患者向医薬品ガイドについて

患者向医薬品ガイドは、患者の皆様や家族の方などに、医療用医薬品の正しい理解と、重大な副作用の早期発見などに役立てていただくために作成したものです。

したがって、この医薬品を使用するときに特に知っていただきたいことを、医療関係者向けに作成されている添付文書を基に、わかりやすく記載しています。

医薬品の使用による重大な副作用と考えられる場合には、ただちに医師または薬剤師に相談してください。

ご不明な点などありましたら、末尾に記載の「お問い合わせ先」にお尋ねください。

さらに詳しい情報として、PMDA ホームページ「医薬品に関する情報」<http://www.pmda.go.jp/safety/info-services/drugs/0001.html>に添付文書情報が掲載されています。

【この薬の効果は？】

- ・この薬は、精神神経用剤と呼ばれるグループに属する薬です。
- ・この薬は、脳内の神経伝達物質の受容体に作用してそのバランスを整えます。
- ・次の目的で、医療機関で使用されます。

統合失調症における精神運動興奮

- ・急激な精神運動興奮などで緊急を要する場合に使用されます。

【この薬を使う前に、確認すべきことは？】

- 血糖値が著しく上昇し、糖尿病性ケトアシドーシス、糖尿病性昏睡（吐き気、甘酸っぱいにおいの息、深く大きい呼吸、意識の消失）などの重篤な状態になり、死亡にいたる可能性があるため、この薬の使用中は、血糖値の測定などがおこなわれることがあります。
- 低血糖（お腹がすく、冷汗が出る、血の気が引く、疲れやすい、手足のふるえ、

けいれん、意識の低下、脱力感、刺激がないと眠ってしまうなど）があらわれることがあるため、血糖値を測定される場合があります。

- 患者や家族の方は、高血糖（体重が減る、喉が渇く、水やジュースを多く飲む、尿量が増える、尿の回数が多い）や低血糖があらわれることがあることを十分に理解できるまで説明を受けてください。これらの症状があらわれたら、ただちに受診してください。【この薬の使用中に気をつけなければならないことは？】に書かれていることに特に注意してください。
- 次の人は、この薬を使用することはできません。
 - ・昏睡の状態にある人
 - ・バルビツール酸誘導体などの中枢神経抑制剤の強い影響下にある人
 - ・過去にジプレキサ筋注用に含まれる成分で過敏症のあった人
 - ・アドレナリンを使用している人（アドレナリンをアナフィラキシーの救急治療に使用する場合を除く）
- 次の人は、特に注意が必要です。使い始める前にそのことを医師または薬剤師に告げてください。
 - ・糖尿病の人、または過去に糖尿病になったことがある人、血縁に糖尿病の人がいる人、高血糖の人、肥満の人など糖尿病になりやすい人
 - ・重篤な心血管疾患の人、又は低血圧、徐脈（めまい、立ちくらみ、息切れ、脈が遅くなる、脈がとぶ、気を失う）、呼吸抑制（呼吸回数が減る、呼吸が浅くなる）、中枢神経抑制を引き起こす薬剤による治療を受けている人
 - ・尿閉、麻痺性イレウス、閉塞隅角（へいそくぐうかく）緑内障（目の充血、目のかすみ、視力の低下、視界の中に見づらい部分がある、霧がかかったような見え方、目の痛み、視野が欠けて狭くなる）の人
 - ・てんかんなどのけいれんをおこす病気のある人、または過去におこしたことがある人
 - ・この薬の代謝を遅くする要因（非喫煙、女性、高齢の人）を併せ持つ人
 - ・長時間動かないでじっとしている人、長期間病床にある人、肥満の人、脱水状態の人〔肺塞栓症（胸の痛み、突然の息切れ）、静脈血栓症（下肢のむくみ・痛み）などをおこす危険がある人〕
 - ・肝臓に障害のある人、肝臓に影響のある薬剤による治療を受けている人
 - ・妊婦または妊娠している可能性のある人
 - ・授乳中の人
- この薬には併用してはいけない薬〔アドレナリン（アナフィラキシーの救急治療に使用する場合を除く）（ボスミン）〕や併用を注意すべき薬があります。他の薬を使用している場合や、新たに使用する場合は、必ず医師または薬剤師に相談してください。

【この薬の使い方は？】

この薬は注射薬です。

●使用量および回数

通常、成人の使用する量は次のとおりですが、あなたの年齢や症状などにより、医師が決めます。

販売名	ジプレキサ筋注用 10mg
一回量	ジプレキサ筋注用を 1 回 10mg 筋肉内注射します。効果不十分な場合には、1 回 10mg までを追加投与できますが、前回の注射から 2 時間以上あけます。また、注射回数は、追加を含めて 1 日 2 回までです。

【この薬の使用中に気をつけなければならないことは？】

- ・眠気、注意力・集中力・反射能力などの低下がおこることがあるので、高所での作業や自動車の運転などの危険を伴う機械の操作は行わないようにしてください。
- ・血糖値が上昇し、糖尿病性ケトアシドーシスや糖尿病性昏睡などがあらわれることがありますので、特に高血糖、肥満などの患者さんでは注意してください。高血糖や低血糖があらわれることがあるため、血糖値の測定がおこなわれることがあります。これらの症状があらわれたら、ただちに受診してください。
- ・この薬を使用後に他の抗精神病薬を服用する場合には、主治医に相談の上服用し、体調の変化に注意してください。
- ・めまい、起立性低血圧（脱力感、めまい、ふらつき、立ちくらみ、気を失う）、徐脈、低換気（呼吸回数が減る、呼吸が浅くなる）があらわれることがあるため、これらの症状に注意してください。
- ・体重が増加することがあります。体重が増加し始めた場合には、医師に相談し食事内容を改善したり、運動をするなどしてください。
- ・妊婦または妊娠している可能性がある人は医師に相談してください。
- ・授乳している人は医師に相談してください。
- ・他の医師を受診する場合や、薬局などで他の薬を購入する場合は、必ずこの薬を使用したことを医師または薬剤師に伝えてください。

副作用は？

特にご注意ください重大な副作用と、それぞれの主な自覚症状を記載しました。副作用であれば、それぞれの重大な副作用ごとに記載した主な自覚症状のうち、いくつかの症状が同じような時期にあらわれることが一般的です。

このような場合には、ただちに医師または薬剤師に相談してください。

重大な副作用	主な自覚症状
糖尿病性ケトアシドーシス とうりょうびょうせいケトアシドーシス	吐き気、甘酸っぱいにおいの息、深く大きい呼吸
糖尿病性昏睡 とうりょうびょうせいこんすい	吐き気、甘酸っぱいにおいの息、深く大きい呼吸、意識の消失
高血糖 こうけつとう	体がだるい、体重が減る、喉が渇く、水を多く飲む、尿量が増える
低血糖 ていけつとう	お腹がすく、冷汗が出る、血の気が引く、疲れやすい、手足のふるえ、けいれん、意識の低下
悪性症候群 (Syndrome malin) あくせいしょうこうぐん (シンドロームマリン)	高熱、汗をかく、ぼーっとする、手足のふるえ、体のこわばり、話しづらい、よだれが出る、飲み込みにくい、脈が速くなる、呼吸数が増える、血圧が上昇する
肝機能障害 かんきのうしょうがい	疲れやすい、体がだるい、力が入らない、吐き気、食欲不振
黄疸 おうだん	白目が黄色くなる、皮膚が黄色くなる、尿の色が濃くなる、体がかゆくなる
痙攣 けいれん	顔や手足の筋肉がびくつく、一時的にぼーっとする、意識の低下、手足の筋肉が硬直しガクガクと震える
遅発性ジスキネジア ちはつせいジスキネジア	意思に反して舌を動かしたり、出し入れしたり、絶えず嚙むような口の動き、意思に反して体が動く
横紋筋融解症 おうもんきんゆうかいしょう	手足のこわばり、手足のしびれ、脱力感、筋肉の痛み、尿が赤褐色になる
麻痺性イレウス まひせいイレウス	便やおならが出にくい、吐き気、嘔吐、お腹が張る
無顆粒球症 むかりゅうきゅうしょう	突然の高熱、寒気、喉の痛み
白血球減少 はっけつきゅうげんしょう	突然の高熱、寒気、喉の痛み
肺塞栓症 はいそくせんしょう	胸の痛み、突然の息切れ
深部静脈血栓症 しんぶじょうみやくけっせんしょう	発熱、皮膚が青紫～暗紫色になる、手足の爪が青紫～暗紫色になる、唇が青紫色になる、下肢のむくみ、下肢の痛み

薬剤性過敏症症候群 やくざいせいかびんしょうしょうこうぐん	皮膚が広い範囲で赤くなる、全身性の発疹、発熱、体がだるい、リンパ節（首、わきの下、股の付け根など）のはれ
----------------------------------	--

以上の自覚症状を、副作用のあらわれる部位別に並び替えると次のとおりです。これらの症状に気づいたら、重大な副作用ごとの表をご覧ください。

部位	自覚症状
全身	体がだるい、体重が減る、冷汗が出る、疲れやすい、けいれん、高熱、汗をかく、体のこわばり、力が入らない、体がかゆくなる、顔や手足の筋肉がびくつく、意思に反して体が動く、脱力感、突然の高熱、寒気、発熱、リンパ節（首、わきの下、股の付け根など）のはれ
頭部	意識の消失、意識の低下、ぼーっとする、一時的にぼーっとする
顔面	血の気が引く
眼	白目が黄色くなる
口や喉	喉が渇く、水を多く飲む、吐き気、甘酸っぱいにおいの息、話しづらい、よだれが出る、飲み込みにくい、意思に反して舌を動かしたり、出し入れしたり、絶えず嚙むような口に動き、嘔吐、喉の痛み、唇が青紫色になる
胸部	深く大きい呼吸、呼吸数が増える、胸の痛み、突然の息切れ
腹部	お腹がすく、食欲不振、お腹が張る
手・足	手足のふるえ、脈が速くなる、手足の筋肉が硬直しガクガクと震える、手足の爪が青紫～暗紫色になる、下肢のむくみ、下肢の痛み、手足のこわばり、手足のしびれ
皮膚	皮膚が黄色くなる、皮膚が青紫～暗紫色になる、皮膚が広い範囲で赤くなる、全身性の発疹
筋肉	筋肉の痛み
便	便やおならが出にくい
尿	尿量が増える、尿の色が濃くなる、尿が赤褐色になる
その他	血圧が上昇する

【この薬の形は？】

販売名	ジプレキサ筋注用 10mg
性状	黄色の塊又は粉末
形状	

【この薬に含まれているのは？】

販売名	ジプレキサ筋注用 10mg
有効成分	オランザピン
添加剤	乳糖水和物、酒石酸、pH 調節剤

【この薬についてのお問い合わせ先は？】

- ・症状、使用方法、副作用などのより詳しい質問がある場合は、主治医や薬剤師にお尋ねください。
- ・一般的な事項に関する質問は下記へお問い合わせください。
製造販売会社：日本イーライリリー株式会社 (<http://www.lilly.co.jp>)
日本イーライリリー医薬情報問合せ窓口
Lilly Answers (リリーアンサーズ)
電話：0120-245-970 (一般の方・患者様向け)
受付時間：8時45分～17時30分
(土、日、祝日、その他当社の休業日を除く)